

自然からの贈り物“水” 一人1日200リットル!?

一般的に、成人した人の体には、1日におよそ2リットルの水が必要だと言われています。加えて、一人が1日に使う水の量は、平均すると200リットルにも及ぶそうです。「えっ、嘘でしょう!?!」と思う人もいるかもしれません。家庭での水消費量のうち、お風呂とトイレでおよそ6割が使われ、その他にも洗濯、炊事、洗顔などで使われます。水の使用量は、時代とともに増加傾向にあるようです。



日本では、蛇口をひねると、いつでもきれいな水が出てきます。世界的に見ても降水量が多く、水が豊かな国の象徴とも言えるでしょう。その一方、自然災害によって断水や給水制限が実施されると、その時だけ水のありがたさを実感する、という面があるのも事実でしょう。



人は、単に「生きている」のではなく、自然に「生かされている」存在です。地域によっては、雨量の多き季節を迎えますが、「雨は嫌い、憂鬱だ」と思わずに、大自然の恵みである水に対して、感謝を向けていきたいものですね。

ものに礼を尽くす 針供養・人形供養

私たちは日々の生活の中で、様々な「もの」に囲まれています。「もの」からは、機能や働きによる便利さや、その存在から得られる心の安らぎなど、たくさんのメリットを受けています。そうした反面、普段、「もの」に感謝することはあまりないかもしれません。豊かさに慣れて、使い捨てが当たり前だと思う人もいるでしょう。

古来日本では、針供養や人形供養など、「もの」を労う供養を行ってきました。現在は、8月3日の「ハサミの日」といった記念日などもあります。「もの」に対する感謝の供養という形で行うのは、日本独特の慣習と言えるでしょう。

美容室、理容室を経営する美容師、理容師さんには、長年愛用しているハサミがあり、定期的なメンテナンスを施し大切に使っています。「ハサミは大事にすると、精一杯に働いて、髪の毛をきちんとカットしてくれるんです」と感謝されています。

「ものには魂が宿る」という思いで大事にしてきた古くからの慣習を忘れずに、身近なものに感謝し、使った後は礼を尽くしていきたいものですね。

